

笑顔あふれる大戸小



大戸小マスコットすぎっぴー

# 大戸小だより

[URL:http://oto-e.saitama-city.ed.jp/](http://oto-e.saitama-city.ed.jp/)



開校 145年 学校教育目標 ○かしこく ○やさしく ○たくましく

平成 29年 12月 1日  
学校だより 12月号  
さいたま市立大戸小学校  
831-3796  
明治 6年 開校

やってみせ、させてみて

校長 吉野 勇 人

子どもが進歩したら、それを大人が認めてあげるとはとても大切なことです。

「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらずば人は動かず」という言葉があります。これは、指導する立場にいる人への戒めの言葉でしょうが、子どもを育てる場合の親の姿を实によく表している言葉だともいえます。

たとえば、子どもが約束したお手伝いを忘れたとします。その時、「お手伝いをしなかった。まったくお前は・・・」ではなく、まったくやらなかった子が忘れるまで1日でも2日でもできたことを認めてやる必要があります。

人間の一生は、自分で選んでいくというよりも、否応なくやってくる運命を切り抜けていくのが実態ではないでしょうか。そうであれば、失敗を恐れず挑戦する勇気を持たせたいものです。認めることでその力は育ちます。

人間の教育の目的の一つは、自立です。そのためには、親の愛情と仕上げが大切です。

マザーテレサの詞に「愛の反対は無関心」があります。「自分に悪意でない関心を持つ相手には関心を持つ」とも言われます。無関心でない証（あかし）の一つに言葉がけがあります。愛することの一つに「気がついたときに言葉と心を尽くすこと」があります。

常時すぐれていて、立派な子どもはなかなかいないものです。ただし、子どものささいな言動の中に、瞬間にきらめく美しさ、やさしさ、そして努力しようとする意欲を見つけ、励ますことのできる大人でありたいものです。

とかく親は、子どもの早い成長を願うため、より高い目標を提示しがちです。結果的に不十分だと、足りない所を指摘してしまいます。

でも、子どもの日常生活では、「嫌いなものでも食べられるようになった」「前よりも走るのが早くなった」「読書をたくさんするようになった」「ゲームをする時間が短くなった」というように、評価すべき進歩は数多くあるはずで、それを親が認め、ほめてあげれば、子どもは「やればできる。」「できるんだ!」という有能感を持つことができます。地域の皆様、保護者の皆様、子どもの良い点を見つけたらぜひお知らせください。学校でみんなに広げるため大いにほめていきたいと思えます。